

短 報

高等学校 1 年次生を対象としたエイズ予防啓発活動

松 原 誠¹⁾ 伊 藤 公 人²⁾ 高 橋 萌³⁾ 渡 邊 一 弘³⁾
池 田 歩¹⁾ 安 村 真 一³⁾ 村 松 泰 徳³⁾ 住 友 伸 一 郎³⁾

AIDS awareness and prevention activities for
first-year high school students in Japan

MATSUBARA MAKOTO¹⁾, ITO MASATO²⁾, TAKAHASHI MOE³⁾, WATANABE KAZUHIRO³⁾,
IKEDA AYUMI¹⁾, YASUMURA SHINICHI³⁾, MURAMATSU YASUNORI³⁾, SUMITOMO SHINICHIRO³⁾

目的：厚生労働省が報告した平成 30 年度エイズ発生動向によると、新規 HIV 感染者は 20 ~ 30 歳代に集中しており、全体の 65% を占める。性行動体験率の急激な変化の時期である高校生に対して、HIV 感染症や他の性感染症について正しい知識を伝えることは、エイズ予防の啓発活動として重要な責務である。今回、高校生を対象にエイズ予防を中心とした講演を行い、講演後に実施した調査の集計結果から講演がエイズ予防の啓発につながる影響を検証した。

方法：2017 年から 2019 年までの 3 年間に名古屋市内にある高等学校 1 年次生を対象として、HIV 感染症を中心にその他の性感染症に関する内容の講演を 30 分間行った。講演後、講演時間の長さ、難解さ、内容の有用性、興味に関し選択形式で、また役に立つと感じた内容、探求したい事、感想を記述方式での無記名の自記式アンケート形式で実施した。

結果：3 年間で男 1125 名、女 239 名の 1364 名から回答を得た。講演時間は 82% が「適切」と回答し、内容を「(やや) 理解できた」が 93%、「(やや) 役に立つ」が 94% を占めた。講演が「(やや) 面白い」が 53%、「面白くない」が 48% であった。講義内容について役に立つ内容は、主に予防と感染経路についてであり、探求したい事は HIV 感染症を含めた各性感染症の詳細であった。感想としては、将来役に立つ正しい知識を獲得できた事など講演に好意的な意見と、性感染症の病巣画像への嫌悪感などの講演に否定的な意見があげられた。

結語：本調査結果において、選択形式の設問では 3 年間を通じておおむね同じ割合で肯定的に受け入れられていたことが明らかとなった。エイズ予防に有益な活動として、改善を加えながら継続していく予定である。

キーワード：エイズ予防、高校生、アンケート

Objectives: According to the 2018 HIV/AIDS surveillance reported by Ministry of Health, Labour and Welfare, the number of newly HIV-infected individuals in their 20s and 30s is high in age distribution of HIV/AIDS patients, which accounts for 65% of the prevalence. The number of adolescents who have sexual intercourse rapidly increases while they are in high school; therefore, providing them with correct knowledge about HIV infection and other sexually transmitted diseases (STDs) is vital for AIDS awareness and prevention campaign. Using a questionnaire, we investigated the effectiveness of the program of AIDS

¹⁾ 社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院歯科口腔外科
〒 501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代 185-1

²⁾ 社会医療法人杏嶺会一宮西病院血液内科
〒 494-0001 愛知県一宮市開明平 1

³⁾ 朝日大学歯学部口腔病態医療学講座口腔外科学分野
〒 501-0296 岐阜県瑞穂市穂積 1851

¹⁾ Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Matsunami General Hospital

185-1 Dendai Kasamatsu-cho Hashima-gun Gifu Japan 501-6062

²⁾ Department of Hematology, Ichinomiya Nishi Hospital
1 Kaimei-hira Ichinomiya-city Aichi Japan 494-0001

³⁾ Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Division of Oral Pathogenesis and Disease Control, Asahi University

1851 Hozumi Mizuho-city Gifu Japan 501-0296

(2021 年 9 月 1 日受理)

awareness and prevention for high school students.

Methods: Between 2017 and 2019, we have delivered a 30-minute lecture on HIV infection and other STDs to first-year high school students in Nagoya. After the lecture, we made a survey about the presentation, including the length of time and levels of their understanding, interest, and benefit from the lecture by using multiple-choice questions as well as practical points they learned, further information they wanted to know, and impressions about the lecture by using open-end questions.

Results: We received responses from 1364 students (1125 men and 239 women) for the three years. Most students (82%) answered that the lecture length was appropriate, 93% of them basically understood the content, and 94% regarded it as useful. About half of students (53%) thought that the program was interesting, and the other half (48%) did not so. Many students found that learning prevention and transmission routes of STDs was informative and wanted to know more about the diseases, including HIV infection. Students had positive opinions; for example, obtaining correct knowledge about STDs was helpful for the future, while some students had negative opinions; for example, they felt uncomfortable for graphic images of STD symptoms.

Conclusion: These survey results revealed that the lecture positively impacted on some students every year in the program, indicating this activity is beneficial to HIV/AIDS prevention. Therefore, we will continue to deliver the lecture in high school students, improving its content.

Key words : AIDS prevention, high school student, questionnaire

緒 言

厚生労働省は、2006年に毎年6月1日から7日までを「HIV検査普及週間」と定め、早期発見を掲げ普及啓発活動イベントを実施している。HIV感染症には予防、早期発見、早期治療が大切であり、我々もHIV感染症に携わる医療関係者¹⁻⁴⁾として、草の根的に正しい知識の普及啓発を2017年から行っている。今回、高校生を対象にエイズ予防を中心とした講演を行い、実施した調査の集計結果から講演がエイズ予防の啓発に与える影響を検証した。

方 法

1. 対象

2017年から2019年までの3年間に名古屋市にある単一の高等学校1年次生を対象とした。

2. 調査内容

講演は各年とも10月に特別授業の形式で行った。HIV感染症を中心に、梅毒等、その他の性感染症(STD)に関して、各年ともほぼ同一の内容の講演を30分間行った。講演後に「講演時間について」、「講演は理解できたか」、「講義は役に立つか」、「講義は面白かったか」を選択形式で、また「役に立つと感じた内容」、「もっと掘り下げて聞きたい内容」、「全体的な感想や意見」を記述方式で、無記名の自記式アンケート形式で実施した(表1)。

結 果

3年間で男1125名(2017年401名, 2018年376名, 2019年348名), 女239名(2017年84名, 2018年76名, 2019年79名)の計1364名から回答を得た。

質問1. 講演時間について(図1a)

3年間で「短い」が3%, 「適切」が82%, 「長い」が14%であった。

質問2. 講演は理解できたか(図1b)

3年間で「理解できた」が43%, 「やや理解できた」が50%, 「あまり理解できなかった」が6%, 「全く理解できなかった」が2%であった。

質問3. 講義は役に立つか(図1c)

3年間で「役に立つ」が56%, 「やや役に立つ」が38%, 「あまり役に立たない」が4%, 「全く役に立たない」が2%であった。

質問4. 講義は面白かったか(図1d)

3年間で「面白い」が17%, 「やや面白い」が36%, 「あまり面白くない」が32%, 「全く面白くない」が16%であった。

質問5. 役に立つと感じた内容

HIV感染症については、性交渉時に相手のことを考えて正しくコンドームを使用する必要性などの予防方法、蚊が媒介することはないなどの感染経路、エイズ発症するまでの症状、友人がHIV感染症であった場合、その他HIV感染者への対応、名古屋市が行っている無料のHIV感染の検査体制の項目があげられた。またHIV以外のSTDについては、性感染症の梅

表1.

-
- 質問 1. 講演時間について
- ① 長い ② 適切 ③ 短い
- 質問 2. 講演の理解できたか
- ① 理解できた ② やや理解できた ③ あまり理解できなかった ④ 全く理解できなかった
- 質問 3. 講義は役に立つか
- ① 役に立つ ② やや役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全く役に立たない
- 質問 4. 講義は面白かったか
- ① 面白い ② やや面白い ③ あまり面白くはない ④ 全く面白くない
- 質問 5. 役に立つと感じた内容
- 質問 6. もっと掘り下げて聞きたい内容
- 質問 7. 全体的な感想や意見
-

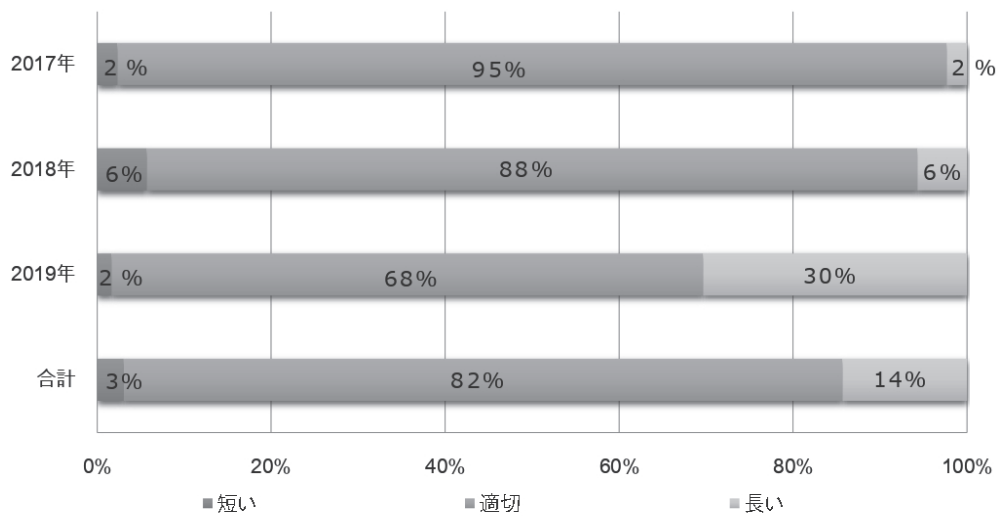


図 1a 質問 1. 講演時間について

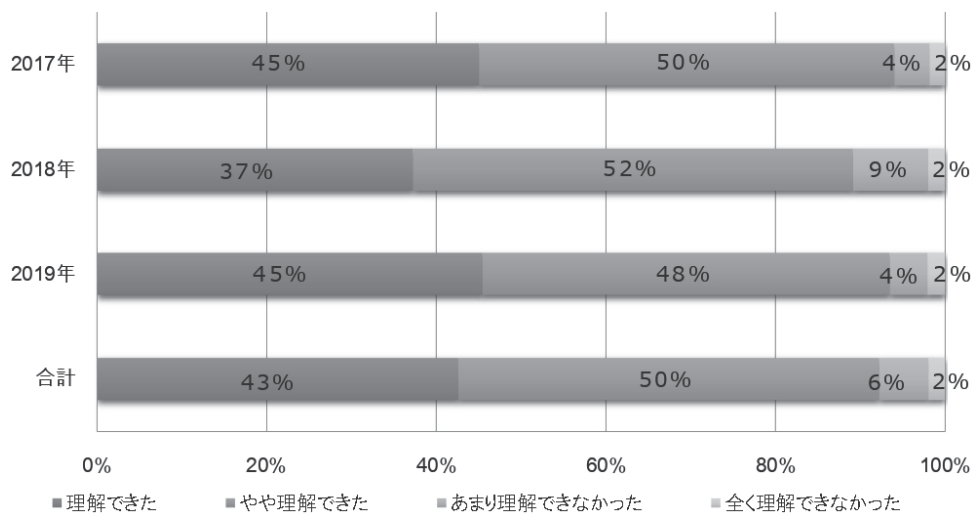


図 1b 質問 2. 講演の理解できたか

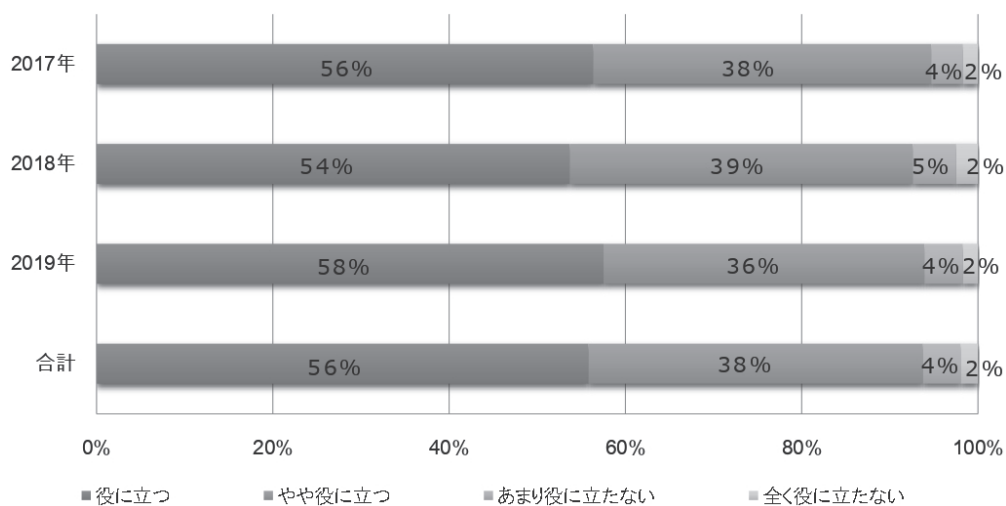


図 1c 質問 3. 講義は役に立つか

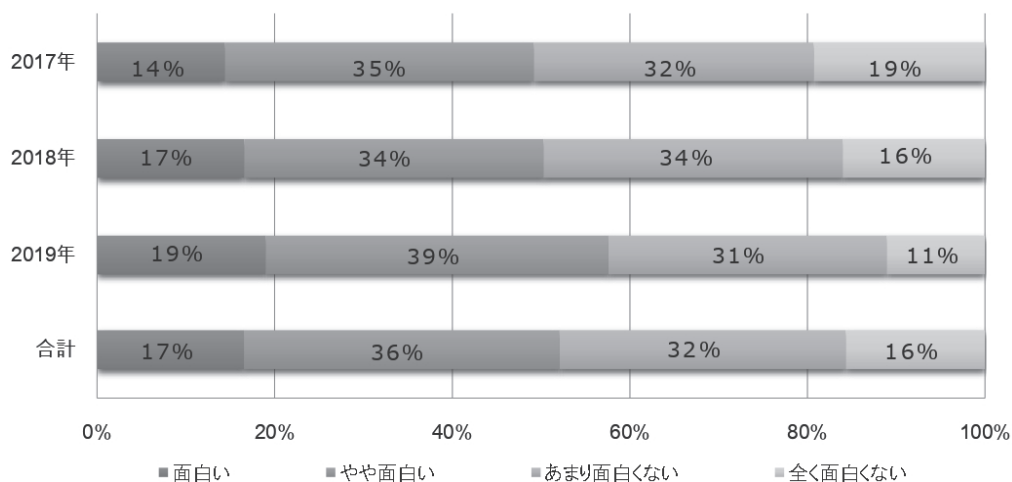


図 1d 質問 4. 講義は面白かったか

毒の罹患率や治療方法以外に、LGBT（性的マイノリティー）の割合などがあげられた。

質問6. もっと掘り下げて聞きたい内容

HIV感染症を含めた性感染症の各疾患の詳細があげられた。具体的には予防方法、感染経路、症状、検査方法、診断、治療方法であった。その他、LGBTについてや、コンドームの歴史などもあげられた。

質問7. 全体的な感想や意見

肯定的意見としてコンドームの重要性が理解できたこと、大学年になってからでは遅く今知れたこと、普段自分から調べないことなので講演会で聞いたこと、正しい知識を知れたこと、講演中に使用した画像が良かったこととしてあげられた。また、望まぬ性行為、強姦されたときには悩まず、取りあえず検査しようと思ったことや、自分には関係ないと思っていたけどいい話が聞けたと思ったことなどもあげられた。否定的な意見としては、内容が難しいこと、専門用語が多かったこと、もっと予防の話が聞きたかったことがあげられた。また、講演中に使用した画像への嫌悪感を抱いた意見もあげられた。感想としては、某テレビドラマを思い出したこと、トランスジェンダーの割合への驚いたことがあげられた。

考 察

厚生労働省の報告⁵⁾によると、新規報告のHIV感染者およびAIDS患者に占める割合は日本国籍男性が80%以上を占めている。年齢ではHIV患者感染者新規報告は20歳代と30歳代で、この年齢階級における人口10万対HIV感染者新規報告者の明らかな減少傾向はみられておらず、若年層に重点を置いた予防への啓蒙が引き続き重要と言われている。2017年における中学生の性交経験率は男女ともに5%以下であったのが、高校生になると男子で14.6%、女子で19.3%と上昇する⁶⁾。そのため、高等学校1年次生を対象にすることは、HIV患者新規感染者を予防する上で有効と考えられた。また、本講演はエイズ予防の啓発活動の一環であったためHIV感染症の内容に重点を置いたが、他の性感染症についても加えた。特に梅毒はHIV感染症との密接な関係が以前から知られ、男性同性愛者における梅毒とHIV/AIDSの重複感染患者の増加が世界中で問題となっており⁷⁾、また数年前にテレビドラマが梅毒をテーマに取り扱ったことから、本講演内容が生徒に受け入れられた要因の一つであったと考えられる。これら広範な内容を30分間という短い時間で講演を行ったが、通常の授業時間50分間より短いため「適切な時間」と感じた学生が多数を占め、広範囲の内容であったにも関わらず9割近くの学生に

理解され、役に立つとの回答を得ることができたと考えられた。そのなかで「面白い」、「やや面白い」と感じた学生が半数であったことは、本講演で取り上げた内容を楽観的には捉えず、近未来または現在の自身の問題として興味深く捉えていた結果の現れと考えられた。また、役に立つと感じた内容は、講義内容のほぼ全ての領域を網羅し、掘り下げて聞きたい内容も同様の結果であった。これは、限られた時間で幅広い領域を取り扱ったため、物足りなさを感じた可能性があるが、HIV感染症を知る良い契機になったとも考えられる。全体的な感想や意見では、高校1年次生であったタイミングや、自ら調べることのない内容を知ることができたことなど、肯定的な意見があった一方、内容が難しいことや専門用語が多いことなど、反省すべき点も挙げられた。また、病変を有する性器の画像については、事前に学校関係者に問題ないことを確認した後に、スライド内に実際の臨床画像を用いて示した。本スライドを使用した理由としては、生徒が周囲への相談や病院を受診するかどうかは、まず自分で判断することが受診の契機となるため、実際の臨床写真を生徒に供覧し自身の異常に関し早期受診、早期診断をすることにつながるのではないかと期待し使用したが、生徒の意見は賛否両論であった。実際の性器の写真を生徒が目にするることによる生徒の精神状態への影響への配慮などについては、供覧前に学生に事前に予告するなどの対策を強化することは今後の課題の一つである。

本調査結果から、限られた時間での講演ではあったが、大半の生徒が内容を少なからず理解し、約半数の生徒が内容に興味を示したことが判明し、本講演が啓発活動として生徒に一定の効果を与えたと考えられた。またHIV感染症などの性感染症の予防方法や感染経路への興味を有する生徒の割合が高いことが判明し、高校1年次生が性行動に関し既に自己決定および自己責任を自覚していることが示唆された。本活動は今後も継続していく予定である。

利益相反：本研究において利益相反に相当する事項はない。

参考文献

- 1) 松原誠, 伊藤公人, 住友伸一郎: 高等学校1年次生を対象としたエイズ予防啓発活動. 日本エイズ学会誌 21: 543, 2019.
- 2) 伊藤公人, 安藤友恵, 竹中香奈枝, 岩田聡, 竹本俊也, 松原誠, 片浦貴俊, 桐山佳奈, 杏名健雄: CMV脳炎との鑑別が困難な脳原発悪性リンパ腫を発症した

- AIDS の一例. 日本エイズ学会誌 19 : 501, 2017.
- 3) 伊藤公人, 松原誠, 片浦貴俊, 松井香奈枝, 安藤友恵:
都市型急性期病院である社会医療法人が「エイズ治療
拠点病院」としての診療活動を行う意義について. 日
本エイズ学会誌 18 : 559, 2016.
 - 4) 松原誠, 伊藤公人, 片浦貴俊, 松井香奈枝, 安藤友恵,
伊藤正樹: 味覚障害を契機に HIV 感染症と診断され
た一例. 日本エイズ学会誌 18 : 547, 2016.
 - 5) 厚生労働省エイズ動向委員会: 平成 30 (2018 年) 年
エイズ発生 動向年報, 2019.
 - 6) 加藤雪彦: エイズと梅毒 その密接な関係. 日本エイ
ズ学会誌 20 : 8-14, 2018.
 - 7) 片瀬一男: 第 8 回「青少年の性行動全国調査」の概要,
日本性教育協会, 「若者の性」白書, 東京, 小学館,
9-28, 2019.
-